

無料

ご自由にお持ち  
帰り下さい

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

# 沖縄協会だより

2019.9

No.13



## 平和の絵—「戦争と平和」

### 20点連作—第7作

西村計雄 作

### 闘牛

300号

175.7×301.9×6.5cm



〈制作意図〉 スペインの闘牛は、人と牛の対決であり、血腥い闘いだが、沖縄の闘牛は人と牛が一体となった牧歌的な雰囲気をもっている。闘志に燃えて対決する牛と牛、その牛を必死に介添える人。そこには人と牛とのやさしいふれあいがあり、のどかさや明るさがある。これらは沖縄の風土が生んだものであろう。肉迫する激しい闘いを鋭角的に捉えるため、旧石器時代後期のものといわれるラスコーの壁画の手法を取り入れ、その中に沖縄の風土のやさしさを色彩で表現した。  
(昭和56年6月4日寄贈)

西村計雄(明治42年・北海道生まれ)

東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展(現・日展)特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品は、フランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス芸術文化勲章、共和町立西村計雄記念美術館開館。  
2000年12月4日没。

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行なった特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設立された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会



“人を樹うるに如くは莫し”

昭和女子大学名誉教授

川平 朝清

私が沖縄協会の理事に就任したときは、会長が茅誠司先生、専務理事が吉田嗣延さんの時代でした。丁度その頃、私はNHKを定年退職して放送文化基金の事務局長になっており、その基金の理事長も茅先生で、図らずも一つの財団基金の運営に関わる好機となったのです。37年もの長い間理事を務めさせていただいたことになりました。

1981年(昭和56年)私が理事に就任した年、沖縄協会流動研究センターが設置され、沖縄県の委託による「人材育成基金の創設に関する調査研究」(主任研究員・斉藤弘国教育研究所第4研究部長)のグループを編成することになりました。吉田専務理事の勧めもあり、私は喜んで参加させていただき、6か月の間に10回ほど集まり、調査資料を持ち寄り討議を続けた結果、次のような目的の文案をまとめました。

「財団は、豊かな人間性を培い、国際時代にふさわしく、沖縄県の振興開発を担うことのできる活

力ある多様な人材を育成する学資金の貸与による育英奨学、留学による国際理解と国際協力、学術・産業・文化等に寄与する研究・研修の助成など必要な業務を行い、もって沖縄県の教育・文化・産業の自立的な発展の基礎作りに資することを目的とする」

かくして施政権返還10周年を記念し、沖縄県育英基金を拡大発展させる形で、1982年5月財団法人沖縄県人材育成財団が発足しました。

創立10周年を迎えた1992年、私は琉球新報に求められて寄稿した「日曜評論」にこの人材育成財団を次のように紹介しました。

「財団の資金総額は1991年3月末現在51億8千万円に及び堂々たる奨学財団となっており、喜ばしい限りである。日本にある25の財団の中、地方法人は22財団であるが、資産規模・事業規模ともに突出しているのが沖縄県人材育成財団なのである。

事実、25財団中、沖縄県人材育成財団は資産総額上位20財団中15位、しかも年間助成額となると10位となっている。ちなみに私の勤めている放送文化基金は、資産総額で13億円と4位に付けているが、助成額においては8位となっている。ファックスで業務概要を送っていたのだが、県・市町村出捐金に加えて20に及び企業による篤志奨学基金の多彩さは、沖縄の教育に対する熱意と善意の強さ、深さを見る思いに胸を打たれる。

多彩さといえは事業内容にも、他府県に見られない国際性の豊かさ、人材育成の広がりを感じさせられる。英語圏優先にはアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、東アジアとしては韓国、台湾があり、また東南アジアとしてのフィリピン、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシアなど、さらには、海外移住子弟の県内大学への留学に対する奨学制度とか、高校生の海外留学制度、在沖米軍施設内大学への勉学

等々、10年の歩みの着実に心から称賛を送りたい。これまでの奨学金総額20億円、奨学金を受けた人々は8,800人を超え、という。財団のパンフレットの扉にある「管子」の名言の通り、人を樹うるに如くは莫しである。」

財団はその後沖縄県国際交流・人材育成財団と名を変え、事業範囲・規模は一段と広くなりました。そして今年、創立37周年となります。

そのホームページで見ても、今や基金は12億5900万円となっています。基金は1991年当時より2.4倍、これまで奨学金を受けた数も66,900人を超え、約200億となっています。2,876の助成応募型財団の中11位を占めているとあります。私はこの財団の創立に関わったことを誇りに思っております。財団の益々の発展を祈ります。

## 応募案内

### ★第41回(令和元年度)

#### 沖縄研究奨励賞推薦応募案内

本奨励賞は沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学・社会科学)を行なっている新進研究者(又はグループ)の中から、受賞者3名を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万を贈り、表彰するものです。

※詳細は、「公益財団法人沖縄協会のホームページより

### ★沖縄平和祈念堂

#### 改修工事に伴うご寄付のお願い

開堂から41年を迎える沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

※詳細は、「公益財団法人沖縄協会のホームページより



# 沖縄協会主催・共催行事

## ★2019年度勉学支援生の決定

7月10日、当協会が実施している「沖縄青少年勉学支援事業」(6月30日応募締切)の審査委員会が当協会東京事務所で開催された。厳正慎重な審査を行った結果、7人を新規の勉学支援生にすることを決定した。本年度の勉学支援生は前年度からの継続者3人を加え、合計10人。一人あたり年額60,000円の勉学支援金が給付される。昭和49年に始まった本事業は平成30年度末までに延べ1,136人の沖縄青少年に支援を行い、507人が卒業し習得した資格や技術を活かして幅広い分野で活躍している。

## ★沖縄関係団体助成事業一 沖縄豆記者団取材活動

### に対する協力

当協会が沖縄関係団体助成事業の一環として毎年協力している沖縄豆記者団(主催)沖縄豆記者交歓会は7月29日から8月3日にかけて取材活動を行った。今年の第58次沖縄豆記者団50人(小学生・中学生は29日、羽田空港到着後、総理大臣官邸に安倍晋三内閣総理大臣を表敬訪問。続いて、内閣府沖縄担当部局を訪ね水野敦大臣官房審議官にインタビューをして取材活動を行った。30日は世田谷区を訪れ、保坂展人世田谷区長、渡部里枝教育委員会教育長、和田ひでとし区議会議長を表敬訪問し取材を行った。31日には午前中に国会議事堂を見学取材し、午後、赤坂東邸において秋篠宮皇嗣同妃両殿下並びに悠仁親王殿下にご接見を賜ったのち懇談した。

夕方には在京沖縄出身学生と懇親会を行った。1日からは北海道に移動し根室市等で北方領土取材を行い、8月3日取材活動を終了した。



宮内庁提供

## ★琉球大学家政学科同窓会基金

### の助成対象を決定

5月13日、当協会の琉球大学家政学科同窓会基金「沖縄の生活に関する調査研究及び社会活動に対する助成事業」は、2019年度(第11回・隔年実施)の選考委員会(東盛キヨ子委員長)を開催し、応募があった2件の中から、賀数さゆり氏(お茶の水女子大学大学院生)を、本年度の助成対象者に決定した。助成対象となった研究テーマは、「沖縄県の学力問題と幼児教育に関する社会学的研究」幼児教育が子どもの語彙力に与える影響」。6月13日、県庁記者クラブで贈呈式が行われ、助成金20万円が贈られた。



## ★高良義雄基金の増額

7月22日、勉学支援基金「高良義雄基金」を設置している高良義雄さんから指定寄付として100,000円が寄せられた。これにより「高良義雄基金」は3,700,000円となり、「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」の総額は、67,713,000円となった。また一般寄付100,000円も寄せられた。

## ★ぬちぬぐすーじさびら

### コンサートin摩文仁

### 「第4回モーツァルト

### レクイエムコンサート」

6月16日、平和の礎に刻銘された24万人余の人々の追悼と恒久平和の祈りを世界に発信する、ぬちぬぐすーじさびらコンサートin摩文仁「第4回モーツァルトコンサート」(主催・レクイエムコンサート実行委員会、共催・沖縄県立芸術大学、沖縄協会)が平和祈念堂で開催され、300人余りの聴衆が訪れた。沖縄戦後、生き残った我々が元氣を出して頑張ろうと励まし、勇気づけ、沖縄の復興に尽力した小那覇舞太(小那覇全孝)氏の言葉「ぬちぬぐすーじさびら(命のお祝い)をしましよ」をタイトルに、あらためて戦没者に深く思いをいたし、戦争、基地のない平和な沖縄に向けて努力していく決意を込めて開かれた。コンサートは、J.S.バッハの管弦楽組曲「短調第3番より「G線上のアリア」で開幕し、続いてモーツァルトの「レクイエム」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」が演奏された。厳かに奏でる県立芸大オーケストラ、堂内に響き渡る声楽家と沖縄レクイエム合唱団の計97人の演奏に聴衆は深く魅了され、感動とともに惜しみない拍手が送られた。



## ★令和元年

### 沖縄全戦没者追悼式前夜祭

6月22日、当協会は令和元年沖縄全戦没者追悼式前夜祭を平和祈念堂で開催した。この行事は、慰霊の日と沖縄県が主催する沖縄全戦没者追悼式をより意義あらしめるため、沖縄県、(財)沖縄県遺族連合会、(公財)沖縄県平和祈念財団の共催を得て毎年開催している。当日は、県民をはじめ沖縄県遺族連合会や日本遺族会関係者、各関係機関の代表など約400名が参列し、戦没者の冥福と恒久平和を願った。第一部式典では「鎮魂の火」の献火、「平和の鐘」の献鐘を合図に参列者全員で黙祷を捧げた。主催者を代表して野村一成当協会会長が「令和の時代を生きる私達は現在の生活が幾多の尊い犠牲の上に築かれたことを決して忘れず、戦争への反省と世界平和への決意を新たに、戦没者追悼の象徴である平和祈念堂から全世界の人々に、恒久平和の実現を訴え続けていくことを誓う」と鎮魂(じつたま)のこぼを述べた。第二部は、琉球古典音楽各会派による献奏や琉球舞踊家による

舞踊奉納が行われた。

また、前夜祭関連事業の沖縄平和祈念像「浄め」を6月14日に行った。沖縄バス(株)のガイドと沖縄県工芸振興センター職員・講師・研修生、沖縄県立芸術大学工芸学部工芸専攻漆芸分野3年生の皆さん、そして、平和祈念像の制作に従事した糸数政次同県立芸術大学教授を招き、職員とあわせて36名で平和祈念像の埃を払い浄めた。

## ★安倍晋三内閣総理大臣来堂

6月23日、安倍晋三内閣総理大臣が平和祈念堂を訪れた。安倍総理は、沖縄県主催「令和元年沖縄全戦没者追悼式」参列のため来沖し、国立沖縄戦没者墓苑の参拝に続いて平和祈念堂に到着された。平和祈念堂では安倍総理を野村一成当協会会長と上原良幸副会長、新垣昌頼専務理事が出迎えた。安倍総理は、正午の黙祷の後に「行方不明の魂」放蝶(はな)セミナーに参加するガールスカウトの児童生徒ら一人一人に声をかけ握手を交わし、そのあと記念撮影に応じた。



☆琉球手まりの奉納

6月21日、琉球手まり保存会宮城玲子代表の皆さんが心を込めて制作した琉球手まりを宮城代表と7人の方々が奉納に訪れた。琉球手まり(沖縄の方言で「マイイ」)は、昔から女の子の玩具として祖母や母親によって作られていたもの。特に「十三マイイ」は十三歳になった娘の祝いに、これから訪れる幸せな結婚生活が送れますようにと願いを込めて作られた。現在は縁起物として作られている。今回は、色彩鮮やかで様々な模様の59個が奉納され、あわせて戦没者慰霊の黙禱と世界の恒久平和を祈念した。当協会では、奉納された手まりを平和祈念堂に訪れる国内外の要人や協力者各位に贈呈している。



☆沖縄の7月、

「みるく世がやゆら」を歌う

7月27日、2015年の沖縄全戦没者追悼式で読み上げられた平和の詩、知念捷さん(当時高校生)の「みるく世

がやゆら」に作曲家の萩京子さんが曲をつけた合唱曲の合同演奏会(主催・沖縄で「みるく世がやゆら」を歌う会)が平和祈念堂で開催され、30人以上の聴衆が訪れた。オペラシアターこんにやく座(神奈川県)、沖縄ワエルディ合唱団、くがに合唱団に所属する130人以上が出演し、清らかに、また力強い歌声に平和への熱い思いを込めた。堂内いっばいに響く歌声に聴衆は心を打たれ、深い感動とともに惜しみない拍手が送られた。



☆沖縄 奄美大島・鹿児島

「第21回和合の茶会」

8月11日、一般社団法人茶道裏千家淡交会による沖縄 奄美大島・鹿児島・第21回和合の茶会平和祈念献茶式が平和祈念堂で挙行され、県内外から会員・来賓の方々400人余が参列した。茶道裏千家前家元鵬雲斎千玄室大工匠による献茶の儀は、戦没者慰霊と恒久平和を祈念し、平和祈念堂に「一盃の茶を恭しく献じた。平和祈念堂における千玄室大工匠の献茶は今回で8回目。千玄室大工匠から、自身の悲痛な戦争

体験の語りと共に、茶道を通して世界平和の実現を訴える言葉が述べられた。



☆糸満平和祈念コンサートVOL.5

8月25日、糸満平和祈念コンサートVOL.5(主催 糸満平和祈念コンサート実行委員会)が平和祈念堂で開催された。平成27年の戦後70年の節目にこのコンサートは始められ今回で5回目。沖縄戦で亡くなられた方たちへの鎮魂とふるさとの平和を祈る強い思いが込められた企画。ソプラノ歌手の宮平真希子さん他、国内外で活躍する若手音楽家の皆さんによって演奏された。250人の来場があり観衆を魅了した。



沖縄出身画家作品紹介②

沖縄平和祈念堂美術館

安次嶺金正 作  
台風眼 F40

制作意図

終戦後、緑の木がなくなった。それで住宅は緑を要求した。そして、その頃から青い海青い空、緑の木が沖縄の特長になってきた。そして私は、それら三つの題材に取り組んできた。この作品も青い空を題材にしたものである。私は、この作品において「青」というものの大切さを再確認したかったのである。

安次嶺金正(昭和5年生・沖縄県)

東京美術学校油絵科卒。文展・白日展・創元会展入選。昭和36年琉球大学教授。沖展・創元会展等に出品し、活発な創作活動を行う。創元会会員、沖展運営委員を務めた。平成5年没。

